

令和 5 年 度  
事業 計 画 書

自 令和 5 年 4 月 1 日

至 令和 6 年 3 月 3 1 日

# 令和5年度 事業計画書

## ・事業計画概要

- ・日本自動車教育振興財団は、「社会と自動車のより良い関係を形成するため、高等学校における自動車及び交通に関する教育の支援事業を行い、我が国の交通社会及び交通文化の健全な発展に寄与すること」を目的とし、工業高校を主な対象とした自動車技術教育と全高校を対象とした交通社会教育に並行して取り組む。
- ・技術の進展により自動車産業が転換期を迎える中で自動車及び交通に関する教育も新しい視点が求められている。また、自動車教育を行う教育現場においては教員の高齢化や減少といった課題を抱えており、高等学校における自動車教育支援の在り方を一層強化するとともに、教育現場におけるオンライン授業の拡大、ICT化に鑑みデジタル教材の開発、提供を行う。
- ・技術教育支援事業においては、自動車の最新技術に関する活動（講師派遣等）を強化し、またITC化に対応した自動車技術に関する解説動画の拡充を図る。
- ・研修事業においては、高等学校の先生方を対象とした教員研修会を開催し、最新の自動車技術や交通技術、交通安全対策について学ぶ機会を提供する。また、高等学校などへの出前授業として専門講師を派遣し、モビリティ業界の社会的使命である交通安全教育を中心に全国の高校生へ広く受講機会を設ける。
- ・調査研究事業においては、基礎的情報収集として国内外の調査、及びクルマに対する高校生意識調査を実施する。
- ・普及啓発事業においては、財団活動に関する各種情報のアクセシビリティを向上させるべく、ウェブサイトの全面リニューアルを行う他、SNSの更なる活用による情報発信に取り組む。また、動画学習サイト『早わかり！クルマ塾』のコンテンツ充実に加え、その告知活動を強化する。

## ・事業活動

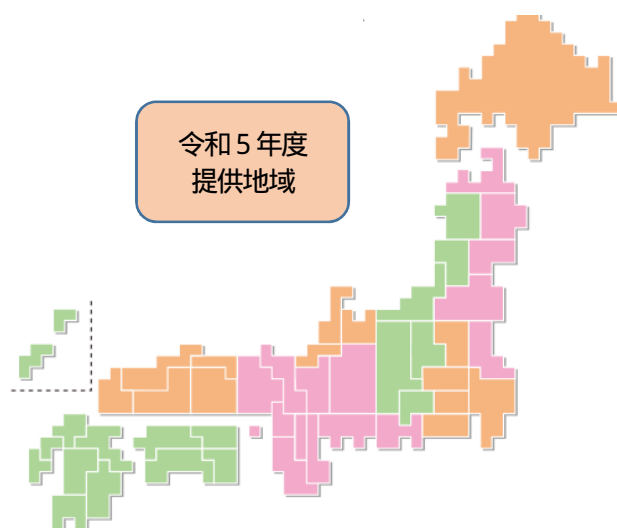
### 1. 技術教育支援事業

#### (1) 教材提供活動

##### 公募

- ・自動車技術教育等を実施している高等学校を対象に定期的に広域公募を行い、自動車技術教育教材を提供する。
- ・令和5年度においては、14都道県（オレンジの地域）295校を対象に公募案内を行い、90校の提供を見込む。（前回同地区提供校数は91校）

令和5年度 提供地域（14都道県）  
北海道・栃木・埼玉・千葉・東京・神奈川  
富山・石川・福井・鳥取・島根・岡山  
広島・山口



提供教材メニュー

- ・自動車の構造に関する基本的な解説教材から、ハイブリッド・EVなどの最新技術に関する解説教材、さらには故障診断に関する応用的な教材まで幅広く揃え、教育現場のニーズに応じて提供していく。
- ・教材メニューは令和4年度同様、28メニューとする。
- ・ICT教育のサポートとして令和6年度教材提供に間に合うよう、DVD教材「自動車の基礎・電気」のリニューアルを完了させる。
- ・自動車の最新技術への対応として、電動車両の技術に関するメニューの追加を検討する。

【令和5年度提供教材メニュー（案）】

1. DVD教材（自動車の基礎・電気）	2. DVD&デジゼタイ「自動車メカニズム」	3. C/D教材（ハイブリッド自動車と水素燃料）	4. C/D教材（自動車の編成とエンジンの作動）	5. C/D教材（燃料系・機関・駆動系（駆動機構））	6. モーター駆動実験セット（自動車用電気駆動）
7. 動く指図教材（4サイクル・2サイクル）	8. 4気筒4サイクル・エンジン 模型	9. ハイブリッドシステム説明模型	10. 駆動用千ヤ学習セット	11. 模型で学ぶセンサー技術（自動車）	12. サスペンション模型
13. 四輪ホイールアライメント教材	14. 分解組立用エンジン（汎用126cc）	15. 分解組立用燃料系エンジン（960cc or 1000cc）	16. 実習用工具セット	17. 実習用工具トルクレンチ	18. 急速充電器
19. 仮床型手動シャッキ	20. 簡易型エンジンスタンド	21. トレーニングサーキット	22. 燃料電池実験キット	23. 燃料電池システム（エコラン大会用）	24. ビデオスコープ
25. 灯火回路実習装置	26. 実車（中古車）	27. エンジン実習装置	28. スキャンツール（外部故障診断装置）		

(2) 教員支援活動

- ・教材提供校の教員に対する支援活動として、エンジンの構造や分解組立に関するノウハウの技術指導を行う。具体的には、汎用エンジン提供校を対象に技術指導員による訪問指導や令和3年度に制作した「汎用エンジン分解組立解説動画」の提供を推進するとともに、分解組立電子制御エンジン提供校を対象に分解組立解説DVDの提供を継続実施する。
- ・ICT教育のサポートとして、自動車技術の解説動画の拡充を図るため、必要なコンテンツを洗い出すとともに、見直しを行う。

(3) 交流促進活動

- ・各道府県の自動車教育推進協議会と連携して、工業高校等に対する提供教材の目録贈呈式・教育懇談会を都道府県単位で開催し交流促進を図る。なお開催場所についてディーラー本社での開催も検討し、ディーラー店舗の見学会実施に結び付けることより、現地における教育現場と関係団体の連携強化を図る。

(4) 協賛支援活動

- ・自動車技術教育の振興に関する広域活動に対して助成支援を実施する。併せて生徒が取り組むエコカーレース等の自動車技術に関する教育イベントや、交通社会に関する教育研究会等の協賛支援を行う。

2. 調査研究事業

(1) 調査研究活動

- ・交通社会、交通文化の健全な発展を考えるための基礎的な情報収集活動として、国内外の都市交通やインフラに関する実態調査を継続して実施する。令和5年度においては国内調査を2回、海外調査を1回行う。

【国内調査案】

	第1回	第2回
日程	5月	11月
目的	非常用電源のみならず、太陽光エネルギー余剰分の貯蔵設備としての役割も担う V2G (Vehicle to Grid) システムの導入の現状と今後の課題を調査。	EV が抱える課題のひとつ「長時間充電」の解決策として期待されるワイヤレス給電。実用化に向けた開発の現状と今後の課題を調べる。
調査先	福岡県	大阪府

【海外調査案】

日程	9月
目的	脱炭素・エネルギー削減対策として取り組んでいる、モビリティの多様化、EV 化の実態及び今後の課題を調査。
訪問先	フランス

(2) 教材作成活動

- ・動画学習サイト『早わかり！クルマ塾』にて、工業系科目（原動機等）、地歴公民科（公共等）、総合学習（探求）に活用可能な動画コンテンツを継続的に制作し、内容の充実を図る。

The image shows a screenshot of the '早わかり！クルマ塾' (Early Understanding! Car Academy) website. The interface is divided into several sections:

- Header:** '早わかり！クルマ塾' logo and 'クルマのまなび舎' (Car Learning Room) with a sub-header '工業系の『自動車工学』や地歴公民科、総合学習の授業に役立つ情報を紹介します。' (We introduce information useful for lessons in Industrial Engineering, Geography/Civics, and General Learning).
- Left Column (Main Categories):**
  - 01 自動車産業の歴史と現状** (History and Current Status of the Automobile Industry): 自動車産業の歴史の概要、社会における自動車産業の役割、人間生活との関わりを扱います。
  - 02 自動車・自転車の交通安全** (Traffic Safety of Automobiles and Bicycles): 日本における交通事故の特徴や、近年課題となっている高齢者の事故対策としての衝突被害軽減装置を扱います。また、生徒の皆さんにとって身近な自転車事故の問題、自転車の交通安全を扱います。
  - 03 地球環境・資源・エネルギー問題** (Global Environment, Resources, and Energy Issues): 気候変動、資源問題など地球環境に関する課題と背景、その解決に向けた自動車関連分野での対応・施策(電動化)を扱います。
  - 04 消費者として考える** (Thinking as a Consumer): "18歳成人"として知っておくべき自動車の売買、所持に関する権利・義務や注意点を扱います。
- Right Column (News/Information):**
  - 01 最新のクルマ・交通情報** (Latest Car and Traffic Information): 自動車に関するイベントの紹介、CASEやMaaSなど自動車や交通に関する最新動向の取材結果などを紹介していきます。
  - 02 『人、クルマ、そして夢。』** (People, Cars, and Dreams): 日本カー・オブ・ザ・イヤー選考委員を務める交通コメンテーター西村直人氏が自動車の自律自動走行、電動化の動向などをわかりやすく解説します。
  - 03 交通安全トピックス** (Traffic Safety Topics): 交通安全に関する旬な話題を解説します。
  - 04 海外のクルマ・交通事情** (Overseas Car and Traffic Situation): 海外における自動車や交通問題に関する動向を紹介いたします。

### 3. 研修事業

#### (1) 財団研修会活動

- ・JAEF 研修会（財団が主催する教員研修会）を開催し、最新の自動車技術や交通技術、交通安全対策を学ぶ機会を提供する。先生方の要望を踏まえ、令和5年度は以下の内容にて4回開催予定。

【開催案】（順不同）

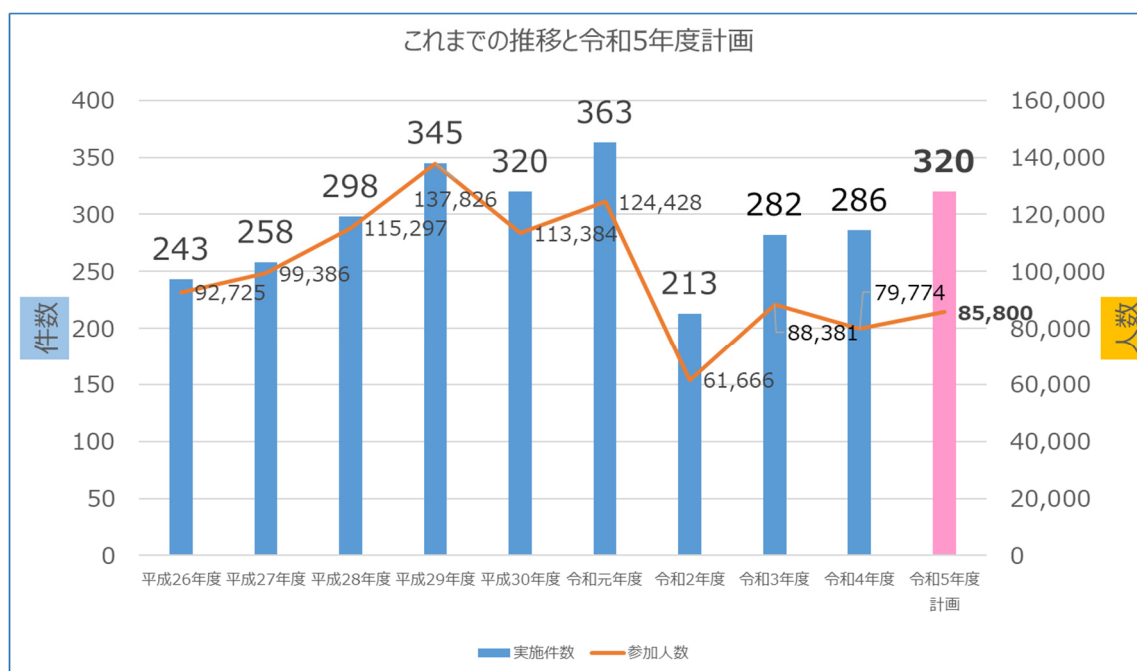
	講演・見学・実習（仮）	研修会場	日程（定員）	場所
プラン	「Co-Pilot Concept」について	マツダ㈱ 本社工場 他	調整中 (40名)	広島
プラン	「電動化と智能化の取り組み」について	日産自動車㈱ グランドライブ 他	調整中 (30名)	神奈川
プラン	「自動車先進技術 発展への貢献」	(一財)日本自動車研究所 城里・つくば	調整中 (20名)	茨城
プラン	「マイクロモビリティの安心・安全な活用」について	調整中	調整中 (40名)	東京

#### (2) 講師派遣活動

##### 通常講習

- ・講師派遣活動（県教育委員会、各種研究会、高等学校等が主催する研修会や講演会への講師の派遣）では、自動車技術系と交通社会系からなるメニューを用意し、全国の高等学校や教育関係団体を対象に広く公募を行う。
- ・令和5年度は、自動車の最新技術と交通安全に関する研修メニューについて、一部見直しを行う。
- ・「自動車技術教育」の講師派遣については、年間40件を目標に、モノコト（体験）の活動を加速させる。強化策として、研修の魅力のアピールするため「実車」を入れた案内文へ変更、令和4年度贈呈式参加校へ事前に案内メール発信等により応募増加に繋げる。
- ・従来のFAX主体の公募に加え、教員向けポータルサイトを活用した告知活動により、新規申込校からの申し込みを促進、コロナ禍前の開催件数を目指す。

【派遣件数・参加人数】



（注）平成26～令和3年度は実績値、令和4年度は見込み値、令和5年度は計画値

【講師派遣メニュー】

区分	ジャンル	研修メニュー	講師派遣企業・団体
自動車 技術教育	自動車の 最新技術	トヨタ ハイブリッド車について	トヨタ系販売会社
		日産 電気自動車について	日産系販売会社
		ホンダ e:HEVについて	ホンダ系販売会社
		マツダ 電動化技術によるクルマの楽しさと環境の両立	マツダ
		三菱自動車 EV・PHEVを用いた持続可能な社会に向けて	三菱自動車工業
	自動車の 整備技術	ガソリンエンジンの分解・組立	自動車整備振興会
		トランスミッションの分解・組立	
		電子制御エンジンの構造と点検・整備	
	環境技術	地球温暖化防止と自動車技術(次世代自動車とインフラ)	財団派遣講師
	交通技術	交通技術と社会のあり方(自動運転技術が拓く未来と人との協調)	自動車関係団体
交通技術と社会のあり方(自動運転と倫理法律問題)			
交通社会 教育	交通安全	ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	日本自動車連盟
		夜間の交通安全対策	
	交通安全	交通事故を起こして問われる責任と損害保険の役割	日本損害保険協会
		「自転車」を取り巻くリスクと損害保険の役割	
	二輪車(バイク)の交通安全～高校生のためのSafety Riding～	日本二輪車普及安全協会	

PIUS 特別講習

- ・令和3年度より新規活動として立ち上げた財団独自の出前授業「PIUS(分解組立式小型電気自動車)特別講習」の取り組みは大変好評を得ている。令和5年度は地方整備振興会との連携も図りながら、前年度同様10回の実施を見込む。

4. 普及啓発事業

(1) 普及啓発活動

- ・動画学習サイト『早わかり!クルマ塾』のコンテンツ充実により自動車教育支援の更なる強化、クルマへの関心・理解向上を図ると共に、SNS(Youtube)を活用した告知活動を継続的に行う。
- ・高等学校関係者による当財団および活動内容に対する認知度をさらに高めるべく、メルマガ登録者数の増加、SNS(Facebook、ツイッター)での情報発信機会拡大に取り組む。

(2) 広域普及啓発活動

- ・財団活動に関する各種情報のアクセシビリティを向上させるべく、ウェブサイトの全面リニューアルを行う。
- ・高等学校関係者以外にも自動車教育、財団活動を広く知り理解してもらうために、ニュースリリース(JAEF NEWS) 活動報告書(JAEF REPORT)の発行に加え、財団に関連するメディア記事をSNSで転載するなど告知活動を強化する。

## . 財団運営

### 1. 収支予算

- ・収入（経常収入）は、より利率の高い債券への入れ替えに伴い503万円増収の8,105万円。令和3年度に一部減少した関連団体の賛助会費（400万円分）は、令和5年度も据え置きとなる。
- ・支出（経常費用）は、自動車技術教育支援事業の強化を図るべく、適正な運営予算の確保及び担当職員の直接採用を行う一方、引き続き効率化に努めることなどにより、58万円増の8,215万円に留めた。

【収支予算：一般正味財産増減の部】

（単位：千円）

		令和5年度予算	令和4年度予算	増減
経常増減の部	経常収益	81,050	76,020	+ 5,030
	経常費用	82,148	81,567	+ 581
	当期経常増減額	▲1,098	▲5,547	+ 4,449
経常外増減の部	当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額		▲1,098	▲5,547	+ 4,449

### 2. 運営

- ・引き続き関係法令に沿った財団運営に取り組んでいく。

以 上